

# CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸三宮伊藤町増築計画	階数	地上8F、地下0F
建設地	神戸市中央区伊藤町107番1他、江戸町103番3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	700人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年8月29日
敷地面積	1,690 m <sup>2</sup>	作成者	山田裕司
建築面積	523 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,415 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 2.8	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要	配慮の概要	配慮の概要 0 外観パースの作成によるまちなみの検証や植栽により、良好な景観の形成に配慮している。
その他の配慮事項 0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**(仮称)神戸三宮伊藤町増築計画**

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.8</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>			<b>2.8</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>2.9</b>	0.15			<b>2.9</b>	
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.8</b>	0.40				
1 開口部遮音性能		T-2以上		5.0	0.30				
2 界壁遮音性能				3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr-55以下		4.0	0.20				
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.1</b>	0.35			<b>2.1</b>	
2.1 室温制御				<b>3.2</b>	0.50				
1 室温				2.0	0.60				
2 外皮性能		断熱性能の高い建材を採用		5.0	0.40				
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.1</b>	0.25			<b>3.1</b>	
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30				
1 昼光率				1.0	0.60				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30				
1 昼光制御				3.0	1.00				
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15				
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御でき、かつリモコンで調整可能		5.0	0.25				
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.6</b>	0.25			<b>3.6</b>	
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質				3.0	1.00				
4.2 換気				<b>3.6</b>	0.30				
1 換気量				3.0	0.33				
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積>1/15		5.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33				
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	1.00				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>			<b>2.9</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>2.5</b>	0.40			<b>2.5</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40				
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画				3.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	0.30				
1 広さ感・景観				1.0	0.50				
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画				1.0	0.50				
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		トイレの壁・床は防汚性の高い建材を採用		4.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		塩ビタイル:20年、ビニルクロス:20年、EP塗装:20年		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種の2種以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		床設計荷重:2900N/㎡以上	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	OA707の採用により、仕上材を痛めることなく修繕可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		外観パースによる景観の検証	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> = 0.60	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.88	<b>2.6</b>	0.50	-	-	<b>2.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		省水型機器の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.1</b>	0.60	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		NewJ-BER、アーストリル工法、ポッドスラブの採用	4.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		LGS+ポッドの納まり、OA707の採用	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつ1<GWP≦50の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出量削減に配慮	<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器の採用なし	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	